



経営・事業管理者のための
データセンター活用ガイド



電算システム IDC 編集部

SOLVING CORPORATE ISSUES
WITH DATA CENTERS



企業の**デジタル課題**が見える
解決方法が分かる

DX 推進 に役立つ活用事例

災害対策 は BCP・DR 対策が不可欠

セキュリティ対策 は何をすべきか

企業向けデータセンターを徹底解説



経営者・事業管理者さまへ

※本資料には、株式会社電算システムが提供する関連サービスのプロモーションが含まれています。

はじめに

本資料をお読み頂き、ありがとうございます。

近年、企業を取り巻くデジタル課題は、増え続けています。
「待ったなしの DX 推進」、「いつ起きるかも知れない災害に向けた BCP（事業継続計画）」、
「中小企業も狙われるサイバー攻撃へのセキュリティ対策」など
枚挙にいとまがないほどです。

しかし、これまで馴染みがないために、他人ごとと考えてしまいがちでもあり、
気が付いたときには、手遅れとなるような事態は避けなくてはなりません。

本資料では、よく見られる企業のデジタル課題をご紹介します。
自社に当てはめていただき、身近に潜むデジタル課題にいち早く「気づく」ことが
重要と考えております。

すぐに実行できる解決方法も合わせて紹介しておりますので、
事業の支障にならないうちに、ご参考ください。

また、成長のための積極的な事業戦略のための施策として、
不可欠なデジタル技術を活用するための要素として、
データセンターの知識と施設をお役立てください。

DX 推進 クラウド化

サイバーセキュリティ

ネットワーク構築・最適化

コスト見直し

アウトソーシングによる 重点事業の促進



デジタル技術を 企業のチカラに



IT コンシェルジュ

**企業に潜むデジタル課題に
「気づく」ことが重要です。**

データセンターの役割

データセンターは、情報機器をお預かりする専門施設であり、
情報処理の専門機関としてのサービス提供もあります。

DXをはじめ、企業成長のチカラに大きな役割を担うデジタル技術を支えることが、
データセンターの役割です。

今日のデジタル課題は、すぐに見えるものの他にも、
気づきにくいもの、わかりづらいものも多く存在します。
それらは、放っておくことで、大きな問題につなげてしまう危険性もあります。
問題が大きくなってから気が付いて対処する場合、
多大な損失や手遅れとなるケースも、少なくありません。

本資料を使って、自社の課題に気づき、解決策を見つけていただくことで、
「企業の発展」と「事業の成長」に導く手段のひとつに
データセンターをお役立てください。

**課題に気づけば、やるべきことがわかる。
さっそく事業戦略に盛り込もう！**



企業に潜むIT分野の課題

事業管理者の 憂鬱



事業の足かせになる課題を
いち早く改善できないだろうか？



プロジェクトリーダー

サービスの安定稼働
が出来ていない



リモートワーカー

表示速度や動作
が遅い



経理担当

資産管理・減価償却を
増やしたくない



購買担当

費用をもっと
抑えたい



サーバーエンジニア

サーバー管理の
技術者が足りない



管理部

BCP 対策として
災害時にも情報資産
を守りたい



システム運用

個人情報扱うため
情報漏洩が心配



セキュリティ担当

不正アクセスを
防ぎたい

これらの課題を
データセンターで解決できます



IT コンサルジュ



サービスの安定稼働を実現させたい



最近、システム障害の話題をよく耳にするが、
うちは大丈夫だろうか？



プロジェクトリーダー

実は…利用者が集中すると
ダウンしてしまうことがあります…
システムの入替えが難しく、
なすすべがなく、そのままに…

ケース1

基幹系システム

ERP
生産管理システム
販売管理システム
EC サイト
人事・給与システム
財務会計システム

ケース2

情報系システム

グループウェア
公式ホームページ
映像配信システム

システムによっては、
企業のビジネス機会や信用を
失う事態も危惧されます。





データセンターで解決

01

負荷の高いシステムを伴うサービスの
安定稼働を実現させたい



IT コンシェルジュ

システムの負荷に合わせて、
サーバーの性能を増加できる
仮想サーバーが有効です。

特にパフォーマンス確保型の
仮想サーバーは性能を発揮できます。

仮想サーバーとは

物理的な 1 台のサーバーの CPU、メモリ、ハードディスクなどを抽象化し、複数の仮想的なサーバーを構築することを「サーバーの仮想化」といいます。
仮想化の歴史は意外と古く、1960 年代には広く使われておりました。高価なサーバーの共同利用方法として発展してきました。
サーバーやネットワークの性能が大幅に向上している現代においては、ハードウェアの物理リソースを最大限に活用し、多くのユーザーや業務で有効に活用するための手法として、サーバーの仮想化は注目されております。

サーバー仮想化の仕組み

サーバー仮想化は利用する仮想化ソフトウェアによって、ホスト型・ハイパーバイザー型の 2 種類の手法に分類され、それぞれメリット・デメリットがあります。この 2 種類の方式では、図に示したようにハードウェア・OS・アプリケーションの関係性が違ってきます。サーバー仮想化を行う場合は、この 2 種類の方式のメリット・デメリットを把握して希望に近い方を選ぶとよいでしょう。

仮想サーバーの 3 つのメリット

1. リソースを有効活用できる

物理サーバーはリソースを常に使用しているわけではなく、リソースを持て余している事が多いです。サーバの仮想化を使用することで、今までは 5 つのシステムを 5 つのサーバーで運用していた場合、5 つのシステムを 1 つのサーバーに集約することができます。

2. サーバのスペック変更が速やかに行える

仮想化したサーバーのリソースの限りは自由に変更可能です。物理サーバーを購入し、オーバースペックだった場合はリソースを減らすことができませんが、仮想サーバーでしたら、適切なリソースに増減させることができため、リソースを持て余すことはありません。

3. 少ないスペースで運用できる

サーバーをデータセンターにハウジングしている場合、今までは 5U 分の設置スペースが必要だったところ、仮想サーバーに集約することで、1U 分の設置スペースまで減らすことができます。データセンターの利用料も場合によりますが、減らすことができ、コスト削減に繋がります

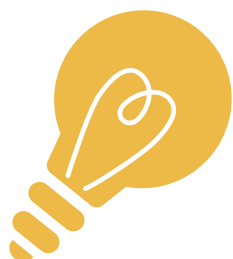
電算システムのデータセンターでは、
技術面の問題について、エンジニアによる提案や
サポートも受けられます。



解決



利用者数がピークを迎える時間帯でも
いつでも快適に動作すると、好評です。



インターネットが遅い 表示速度や動作を快適にしたい



リモートワーカー

テレワークで一斉に接続すると、
インターネットが遅くて…
どうにかならないの？



うちは最も速い光回線の
はずだが…通信環境を
いま以上に快適にする手立ては
ないのだろうか？

ケース1

Windows Update
の更新プログラムが
終わらない

ケース2

アップデートで
ネットワークを圧迫、
Web アプリが重い

不定期な Windows Update
や一斉接続は、通信回線への負荷を高め、
利用者全ての仕事の効率を一時的に
下げてしまう原因になり得ます。





データセンターで解決

02

インターネットが遅い
表示速度や動作を快適にしたい

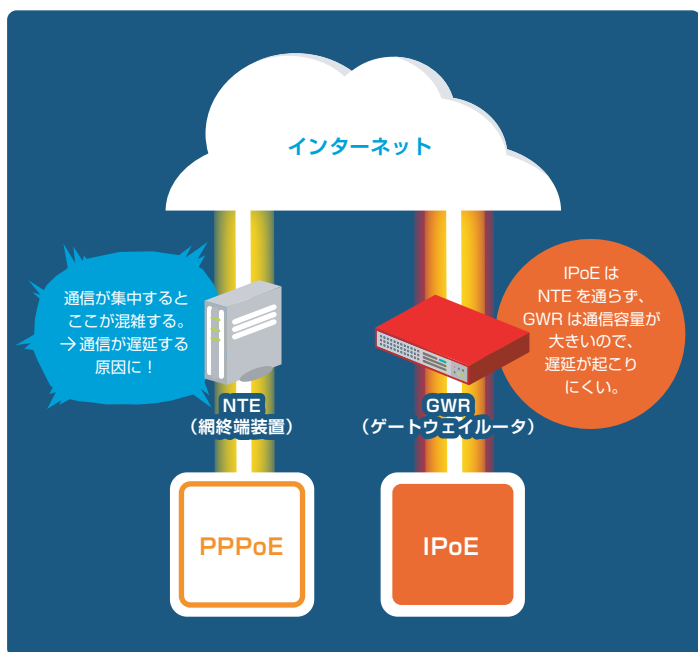


IT コンシェルジュ

回線速度を上げてても遅延が発生する場合、
IPoE を用いた解決方法があります。

IPoE とは

IPoE は、インターネットに接続するための新しい接続方式のひとつです。



IPoE により解決できる理由

IPoE 方式では従来の PPPoE 方式に比べ、接続設備が大容量化されており、利用者の集中による混雑が起きにくい構成になっております。PPPoE 方式では、NTE という網終端装置を通ります。NTE はプロバイダーごとに用意されていますが、装置には通信容量の限界があります。

そのため、インターネットの利用者が増加するほど、NTE の付近で通信が混雑し、ネットワークの速度が低下します。

一方、IPoE 方式では、NTE を通りません。代わりに通信容量の大きい GWR (ゲートウェイルータ) を通り、直接インターネットに接続します。ネットワークが混雑しやすい箇所を通らないので、IPoE 方式では遅延が起りにくくなっています。

IPoE の実際の効果

弊社で実際に IPoE の速度を検証いたしました左のグラフ結果をご覧ください。測定した実測値から、アップロード、ダウンロード共に IPoE は PPPoE の約 2 倍の通信速度ということが分かります。PPPoE から IPoE に変えるだけで、インターネットが遅いという課題は簡単に解決することができるかもしれません。

また、近年クラウド利用の増加が顕著になっており、通信速度が遅いままですと業務に支障をきたします。

IPoE でインターネット環境を改善されたい方や、IPoE について自社の環境に則しているかなど気になる方は、データセンターの個別相談の窓口から、一度話を聞いてみるのもよろしいでしょう。

自社の状況がわからない場合でも
とりあえずデータセンターに
問い合わせると、必要な情報やレクチャーを
聞けるので近道です。



解決



これで会社全体の仕事効率もあげられそうだ。
もっと早く知りたかった。



資産管理・減価償却を増やしたくない



経理担当

減価償却の仕入れは、
資産管理がたいへん…
なんとか
出来たらいいのに…

人も増やせないし、
社内の事務負担も
増やしたくないな…



ポイント

※1 サーバーのリプレースによる負担

※1 リプレース：部品やソフトウェアなどの部分的な入れ替え、機器やシステム全体を新しくすることを指します。

イニシャル
コスト

機器・回線
等の手配

資産管理の
事務作業

必要不可欠でありながら
サーバ数によって、
企業内負担も大きくなります。





データセンターで解決

03

資産管理・減価償却を
増やしたくない



IT コンシェルジュ

サーバーのリプレースを
データセンターに任せることで、
企業の負担をなくすことができます。

イニシャルコストを抑える

サーバー機器や回線など、自社でサーバーのリプレースを行おうとすると、必要最初減に抑えてたとしても、イニシャルコストは高額になってしまいます。

そこでデータセンターを利用して、機器を手配することで、月額に換算することが可能になります。

機器や回線の選定に悩まない

サーバーや必要なネットワーク機器、回線などについても、要望だけを伝えて、あとはすべてデータセンターにお任せすることが出来ます。企業内の人的リソースの負担を軽減できるだけでなく、技術的な問題がある場合にも、エンジニアによる提案、サポートも受けられます。

資産管理の事務作業を増やさない

データセンターに一任することで、自社購入ではなくなりますため、自社の資産管理・減価償却が不要となります。結果、資産管理や減価償却などの事務作業をなくすことにも繋がります。

柔軟なサーバのリプレース対応には、
個別相談のできる IT コンシェルジュが
担当としてつく
データセンターをご利用ください。



解決



大変だった作業負担が
なくなり、イニシャルコスト
も抑えることができました。



資産管理・減価償却も
必要なくなりました。



費用をもっと抑えたい

年々、データが増え続けて、
管理もたいへんになるばかりだ…



プロジェクトリーダー



増えたデータを維持するにも
コストがかかりますよ…



購買担当

見えないところで、
これからもずっと
コストが膨らむのは困るぞ…



ポイント

増えすぎるデータの課題

慢性的な
容量不足

大量のコピー
ファイルの存在

目的のファイルを
探す時間と手間

金額面でのコストの他にも
労力や手間などの見えないコスト
への配慮も重要です。





データセンターで解決

費用をもっと抑えたい

04



IT コンシェルジュ

運用方法を改善することで
コスト削減を実現しましょう。

増え続けるデータを最適コストで管理するには

ファイルサーバを運用する上で生じる代表的な課題は、

- 1) 慢性的な容量不足
- 2) 大量のコピーファイルの存在
- 3) 目的のファイルを探す時間と手間

とされています。

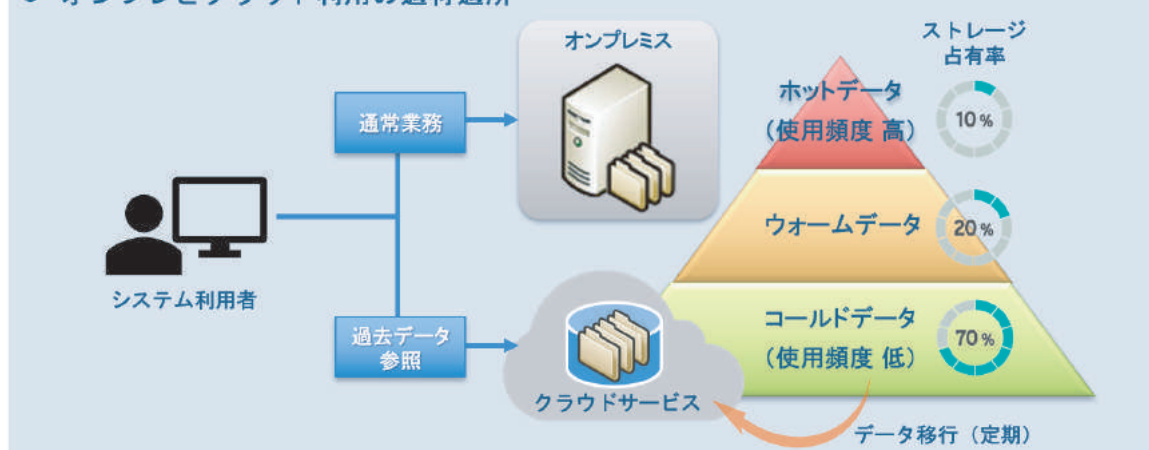
特に、ファイルを探す時間は 1 日平均 1.8 時間という調査結果 (IDC 調べ) にもある通り、業務生産性に多大な影響を及ぼしています。更に、コピーファイルの散在がディスク容量を無駄に消費しているとともに、ファイルの探索に一層の時間を要するなど、負のスパイラルによるコストの増大を招いています。サーバの容量不足を補うには「長期間アクセスがない古いファイルを移行・削除」「コピーファイルの移行・削除」が有効です。

また、使用頻度に応じてサーバを使い分けることも有効な手段です。使用頻度の高いデータは高速なファイルサーバに、逆に使用頻度が低いデータはクラウドサービスなどの安価なサービスを利用し IT コストの削減を実現するとともに、利便性も確保することができます。

まずは、肥大化し続けるファイルサーバの現状把握のために、アセスメントの実施をお勧めします。

データセンターでは、分析ツールによりファイルサーバの使用状況を可視化し、使用頻度の高いデータ・低いデータを整理することで、最適コストでのファイルサーバ運用方法の提案をしてもらうことも出来ます。

● オンプレとクラウド利用の適材適所



企業の利用状況に合わせて
データセンターが提案します。



解決



コストだけでなく、
データを探す手間と時間の
無駄がなくなってよかった。





サーバー管理の 技術者が足りない



事業の拡大に伴ってサーバーも増えるが
人は増やさないで
対応できないものだろうか？



サーバーエンジニア

次の新しいシステムで
使われる技術に対応できる
エンジニアが企業内にいないな…

ケース1

人手が足りない

エンジニアが足りず、
新しい業務を増やせない

企業内スタッフの
専門外の技術に関する
知識と経験が必要

ケース2

エンジニア不在

企業内にエンジニアがいない

人を増やす計画がない

システムの種別によって、
必要な専門分野も異なります。





データセンターで解決

サーバー管理の技術者が足りない

05



IT コンシェルジュ

データセンターの
専門技術に精通するエンジニアによる
サーバー管理やサポートも受けられます。

ネットワーク監視

「ネットワーク監視センター」で、24 時間 365 日有人による、運用及びサーバー監視を行います。
企業側に設置されたサーバーについても遠隔で監視を行うことも可能です。アラート検知時は、即座に企業側の担当者に連絡が入ります。

侵入検知システム (IDS) による監視

IDS とは、通信回線を監視し、コンピュータやネットワークへの侵入を検知して、管理者へ通知するシステムです。ネットワーク型 IDS とホスト型 IDS に分類されます。ネットワーク型 IDS は、ネットワーク上を流れるパケットを分析し、不正アクセスの疑いがあるパケットを検知します。
ホスト型 IDS は、監視対象となるシステムに直接インストールし、受信したパケット、システムファイルやログのサイズ、パーミッション、改竄、ユーザの操作情報などを監視します。

Firewall のログ監視

Firewall のログには、社外からの不正アクセス等のセキュリティアラートが記録されます。アクセス違反を大量に生成している IP アドレスがあった場合、異常な機器として対処を検討する必要があります。
多くの Firewall は専用のログファイルや syslog サーバへログ情報を記録します。ネットワーク機器のログ監視と同様、syslog を用いてログを収集し、監視を行うことが可能です。

コマンドによる監視

プロセス監視と呼ばれる手法は、UNIX/Linux の場合、ps コマンドに相当する方法でプロセスの死活を監視します。Windows の場合、“net start” コマンド相当で確認することができる Windows サービスの死活を監視します。
プロセス監視は、常駐するべきものがダウンしたことを検知させる目的の他に、例外時だけ用いられるプロセスの起動検知、同じプロセス名のプロセス数監視、もしくは特定プロセスが使用する CPU やメモリの使用率監視等、アプリケーション特性によりいくつかの代表的な監視技法があります。

クライアントのシミュレート

各アプリケーションが問題なく稼働していることを確かめるには、ネットワーク、オペレーティングシステム、ミドルウェア、アプリケーションの全てが関係する処理を実際のクライアントアクセスをシミュレートした形で実行させる方法が有効です。例えば Web ベースの受発注システムで、疑似アカウントを作成し、クライアント PC から実際の受発注取引を繰り返し実行するような方法があります。
この方法は、クライアント PC 側にブラウザアクセスをシミュレートするプログラムを導入し、それをを用いて一連のブラウザ操作を記憶させ、シナリオに従ってそれを実行させる技法を使います。これによりアカウントの認証、システムへのリクエスト投入、トランザクション生成、受発注データによるデータベース更新の成否を確認することが可能で、さらに一連の処理の応答時間まで計測することが可能です。

解決



これで事業のメイン業務に専念できる。
社外ブレンが存在は心強い。





※1 BCP 対策として 災害時にも情報資産を守りたい

※1： BCP 対策とは、企業が自然災害やサイバー攻撃などで影響を受けた際に、どのように行動し、事業を継続したり復旧したりするかを考えておく計画のことです。



地震などの災害時や
感染症クラスターが発生した時にも
事業が続けられるように
対策を打てないだろうか？



管理部

各システムで対応のできる
エンジニアも限られており…
非常時にはさらに心配です。

ケース1

基幹系システム の障害

社内業務全般
の停止

ケース2

生産管理システム の障害

原料の仕入れや
原価計算ができず
製品の製造が停止

ケース3

販売管理システム の障害

営業部隊が
ビジネスチャンスを見逃す
販売機会の損失

❗ 停止したら大きな影響を与えてしまう業務には対策が不可欠

BCP 対策によって、
緊急事態への対応力を高め、
お客様からの信用も高められます。





データセンターで解決

06

BCP 対策として
災害時にも情報資産を守りたい



IT コンシェルジュ

レプリケーションによる対策が有効です。

レプリケーションとは

BCP 対策として、予めデータをレプリケーション（複製）することで、本番サーバー障害時にシステムの利用先を複製サーバーに自動切替、ダウンタイムを最小限に抑えた業務継続を可能にします。
対象サーバの複製をデータセンターに設置し、データを常時複製しておくことで、担当エンジニアが不在の時、本番機に不具合が発生しても、瞬時に接続を複製先に切り替えることで、被害を最小限に抑えることができます。

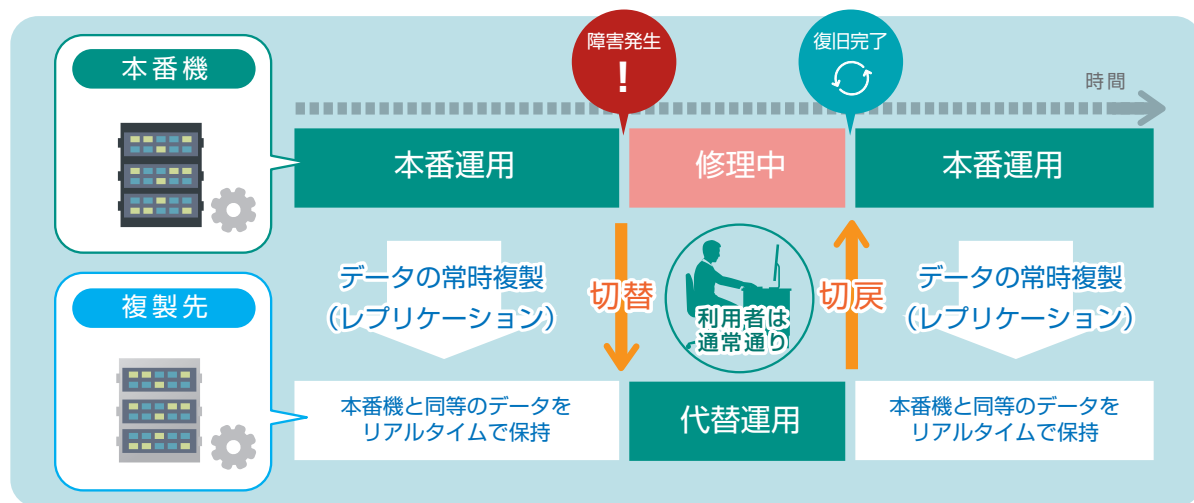
バックアップとの違い

バックアップは「業務再開」のための対策です。システム障害の際、停止による復旧作業が発生します。前回バックアップしたタイミングから障害時までのデータは保存されません。比べてレプリケーションは、リアルタイムに更新するため、業務を止めることなく継続することが可能です。レプリケーションとは「業務継続」のための対策です。

レプリケーションで
障害発生時には接続先を自動切替



サーバー修理中でもユーザはサービスを継続利用、 管理者は修理やリカバリに集中



次に起きるかもしれない
災害や感染症に
充分に
備えましょう。



解決



非常時の対策も打てたことで、
お客様・取引先・株主からの評価も
期待できますね！





個人情報扱うため 情報漏洩が心配



中小企業もサイバー攻撃を
されるのか？



システム運用

セキュリティ対策が
心配だ…

❗ 中小企業を標的とした
サイバー攻撃が増えています



IT コンシェルジュ

パート1

標的型攻撃

正規のメールを装い、怪しむことなく、添付ファイルを開くことで、ウイルスに感染します。感染被害による情報窃取が、他者に対する新たな攻撃を生み出す悪循環が発生している恐れがあります。

パート2

サプライチェーン攻撃

大企業を攻撃するための踏み台とするために、セキュリティ対策が脆弱な企業を標的にします。自社情報だけでなく他社の機密情報まで流出することになり、その損害は計り知れません。



データセンターで解決

07

個人情報を扱うため
情報漏洩が心配



IT コンシェルジュ

低コストで今すぐできる
『情報セキュリティ5か条』をご紹介します。

情報セキュリティ5か条

1.

OSやソフトウェアは常に最新の状態にしよう!

OSやソフトウェアを古いまま放置していると、セキュリティ上の問題点が解決されず、それを悪用したウイルスに感染してしまう危険性があります。お使いのOSやソフトウェアには、修正プログラムを適用する、もしくは最新版を利用するようにしましょう。

2.

セキュリティ製品を導入しよう!

ID・パスワードを盗む、遠隔操作を行う、勝手にファイルを暗号化するというウイルスが増えています。悪意を持ってにネットワークに侵入し通信・サーバ機器全体を脅威にさらす行為を防ぎましょう。ウイルス対策ソフトやUTMを導入し、常に最新の状態にしましょう。

3.

パスワードを強化しよう!

パスワードが推測や解析されたり、ウェブサービスから流出したID・パスワードが悪用されたりすることで不正にログインされる被害が増えています。パスワードは「長く」、「複雑に」、「使いまわさない」ようにして強化しましょう。

4.

共有設定を見直そう!

データ保管などのウェブサービスやネットワーク接続された機器の設定が初期状態のままであるために不適格な人に情報を除き見られるトラブルが増えています。権限のない人がウェブサービスや機器を使えないように設定しましょう。

5.

脅威や攻撃の手口を知ろう!

取引先や関係者と偽ってウイルス付のメールを送ってきたり、正規のウェブサイト に似せた偽サイトを立ち上げてID・パスワードを盗もうとする巧妙な手口が増えています。脅威や攻撃の手口を知って対策を取りましょう。

さらに情報セキュリティ対策を見直されたい方や、
本格的に対策を実施されたい方は
データセンターにご相談ください。

セキュリティアドバイザーによる
情報セキュリティ無料診断も受けられます。
(電算システム IDC)



解決



うちの状況では何が必要なのかも
情報セキュリティの専門家に
相談できて、心強い!





不正アクセスを防ぎたい



セキュリティ担当

Web サイトの表示が
おかしいぞ…



うちの Web サイトの
セキュリティは大丈夫なのか？

ケース1

Web サイトの 改ざんによる ウィルス被害

Web サイトの改ざんにより、偽サイトに誘導してウイルスに感染させるなどの2次被害を招きます。自社の範囲に留まらず、甚大な損害を招く可能性があります。

ケース2

DDoS 攻撃による サイトの停止

DDoS 攻撃とは攻撃者が他人の PC 等に乗っ取って大量のデータを送り付けたり、脆弱性をついたりすることで、サービスを利用不能にする攻撃です。

復旧に甚大な費用がかかったり、
事業停止に追い込まれることがないよう
セキュリティ対策を行いましょう。





データセンターで解決

不正アクセスを防ぎたい

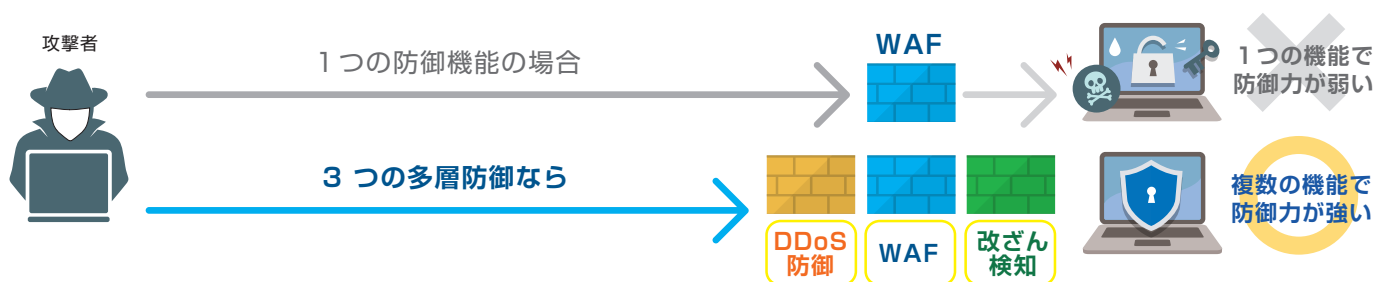
08



IT コンシェルジュ

適切なリスク対策を意識して、
サイト運営を行いましょう。

Web サイトのリスク対策は多層防御が心強い



セキュリティ機能 1



WAF

Web サイトを攻撃から守る「楯」とも言うべき機能です。WAF は一般的なセキュリティソフトで守りきれない未知の攻撃までを防御することが出来ます。

セキュリティ機能 2



DDoS 防御

DDoS 攻撃によって起こされる異常な通信を即座に遮断し、ネットワークの渋滞を防ぐことが出来ます。

セキュリティ機能 3



改ざん検知

改ざん検知機能を使用することで、不正な書き換えを検知して報告を受けることが出来ます。

DNS ハッキングを防ぐ監視機能



DNS 監視サービス

Web サイトのドメインを管理しているサーバーを乗っ取り、ユーザーが気づかないうちに悪意のあるサイトへと誘導する「ドメイン名ハイジャック」を監視します。

万が一に備える保険



サイバーセキュリティ保険

サイバーセキュリティ保険に加入することで、被害が発生した際には、情報漏えいなどの損害賠償補償はもちろん、事故原因の調査費用や情報システム復旧費等をカバーすることが出来ます。

適切なリスク対策をオールインワンで行うサービスもあります。
(データセンターにご相談ください)



解決



サイバー攻撃を防げるようになり、
これで安心して業務に専念できる。

事業発展と課題解決に向けて

まとめ

この度は、本資料を最後までご覧いただきまして、誠にありがとうございます。

デジタルを活用して事業推進を行ううえで、
データセンターの活用イメージを、ご理解いただくことはできましたでしょうか。
この資料が、企業の課題解決や成長のヒントとして、
一助になりましたら、たいへん光栄でございます。

今回、紹介しきれなかった事例も、まだまだ多くございます。

企業の個々の状況に合わせた最適な解決方法や選定などにつきましても、
さらに詳しく質問されたい企業様はご相談もお受けしております。

「自社の IT 環境を診断してほしい」、
「複数の課題がある、何から始めたらよいかわからない」
など、他にも気になることがございましたら
わかりやすく、解決できる方法として、
データセンターの「無料相談」をご活用ください。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

株式会社電算システム

データセンターによる無料相談

下記 Web サイトのお問い合わせから「無料相談」をご利用ください。



<https://www.dsk-idc.jp>



会社名

株式会社電算システム

会社案内

1967年に岐阜県で創業して以来、独立系総合型情報処理サービス企業として、情報処理サービス事業と収納代行サービス事業の2つの分野で事業を展開しています。官公庁をはじめ、製造・流通・金融証券などの顧客層に対して、企画から設計・開発・運用管理まで一貫して取り組み、ベストソリューションを提供しています。

お問い合わせ窓口

岐阜本社 〒501-6196 岐阜県岐阜市日置江1丁目58番地
TEL 058-279-3481 FAX 058-279-3487

東京本社 〒104-0032 東京都中央区八丁堀2丁目20番8号八丁堀綜通ビル
TEL 03-3206-1780 FAX 03-3206-1774

名古屋支社 〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番1号 十六銀行名古屋ビル 12階
TEL 052-961-3690 FAX 052-961-3631

関連 URL <https://www.densan-s.co.jp>
<https://www.dsk-idc.jp>

※本資料に関するご質問、または株式会社電算システムが提供する関連サービスに関するご質問やご相談は、株式会社電算システムの運営サイト URL よりお気軽にお問い合わせください。